

大阪府教育委員会 中原教育長に教えてあげよう！
学力向上最大の改善策は…
学習環境や生活環境を向上でさせることです

全国学力学習状況調査結果が公表されて以降、府教委を先頭に「学力向上」の掛け声や現場への圧力が強まっています。

しかし、反復練習やテストと評価による締め付けでは、子どもたちの勉強嫌いが加速するだけです。今必要なのは、大人の責任で、子どもたちの学習環境、生活環境を豊かに整えていくことではないでしょうか。

その必要性は皮肉にも、全国学力学習状況調査結果の分析から見えてきます。

府教委は19日の府教育委員会議で、全国平均との差が拡大している市町村を「改善がみられない」と決めつけ、学校ごとに「学力向上計画」の提出と一ヶ月ごとの実施報告を強制する方針を打ち出しました。

しかし、今求められていることは、点数の追求ではなく、学ぶ環境や生活環境を向上させること、セーフティネットを充実させることです。

子どもの最大の敵
は「貧困」

派遣などの非正規雇用の増大、ブラック企業の横行が原因で、日本中で貧困率が増大しています。国は都道府県ごとの貧困率を公表していませんが、

山形大学人文学部 戸室
健作準教授のレポートに
よると2007年に貧困
率が20%を超えたのは、
大阪を含む4府県となっ
ています。

大阪府の特徴は、貧困率の増大が激しく10年間で10.4%も増えており、これは全国ワースト1の増加率です。

ただ、この数値はいずれも7年前のもので、安倍政権による消費税増税、インフレ

政策による物価上昇、生活保護基準の改悪などの影響でさらに状況が悪化してい

貧困率が20パーセントを超える府県		
府県	貧困率	1997年度からの上昇
大阪	20.0%	10.4
鹿児島	21.5%	0.7
高知	21.7%	5.9
沖縄	29.3%	0.9

山形大学 戸室健作準教授の論文
より抜粋 (2007年の数値です)

ることは想像に難くありません。

影響は学力調査の結果でも明らか

貧困がどれだけ子ども
の学力に影響しているの
か、全国学力調査結果と
比べてみましょう。

中学国語 A の正答率を
例にとれば、先の貧困率
ワースト4の府県が下位

中学国語Aの 正答率順位	
順位	府県
40	鹿児島県
⋮	
45	高知県
46	大阪府
47	沖縄県

を占めて
いること
も明らか
です。

学力向上の決定策は
学級定数の引き下げ

学習環境の整備も、子どもの学びを保障するた

めに不可欠です。日本の学級規模の大きさは、他の先進諸国ではあり

え、異常な水準で
すが、国の制度改善
を待ちきれず、都道
府県独自で学級定数
00%の県も

の引き下げを行って
いるところが数多く
あります。それによ
り、すべての小中学
35人以下1

校で35人以下学級を
実現している県もある

ります。

この分野でも、大阪府はほとんど策を行わず

「改善が見られない」状態です。その結果、小中学校とも小規模学級の割合が全国の下位に位置しています。

大阪府下でも高槻市の
ように、市独自で全小学
校の35人学級を実施して
いるところがある一方、何

の手も打たず、支援学級児童生徒のダブルカウン
ト廃止や年度途中の転入
で、41人以上の学級があ
ちこちできている現状
があります。

子どもの成長を保障し、学力を高めるために、行政がしなければならぬことは明らかです。

学級定数を引き下げ、

3 下5 %人 以	3 下0 %人 以
100	78
100	57
100	67
99	72
99	52

順位	都道府県名	
1	福井	
2	山口	
3	鳥取	
4	山形	
5	栃木	
		⋮

鄂道府	35%以下人	30%以下人
	100	89
	100	79
	100	91
	100	77
	99	83
⋮		

順位	県名
1	鳥取
2	山口
3	福島
4	長野
5	徳島

35人以下100%の県も...							
小学校				中学校			
順位	都道府県名	35%以下 の人口	30%以下 の人口	順位	都道府県名	35%以下 の人口	30%以下 の人口
1	鳥取	100	89	1	福井	100	78
2	山口	100	79	2	山口	100	57
3	福島	100	91	3	鳥取	100	67
4	長野	100	77	4	山形	99	72
5	徳島	99	83	5	栃木	99	52
⋮				⋮			
41	沖縄	89	64	41	富山	65	31
42	宮崎	89	72	42	福岡	63	29
43	大阪	88	59	43	埼玉	57	19
44	神奈川	88	52	44	沖縄	56	25
45	東京	87	52	45	大阪	54	23
46	愛知	86	57	46	神奈川	52	21
47	埼玉	84	49	47	兵庫	51	22

育とは違う
ものを目指
している
しか
せん。

教職員の数を増やし、よりきめ細かな指導ができるようつとめること。社会保障の分野では、就学援助制度の拡充、子ども医療費の助成制度を充実させ、子育てしやすい環境をつくっていくことなどです。

そういつたことに背を向け、自らの仕事（「教育条件の整備充実」）をサボる一方、貧困と格差の中で懸命に生きる子どもたちの成績が悪いといつて騒ぎ立て、劣悪な条件の中で悩みながらも日々子どもたちに寄り添う教職員に向かつて「改善がみられない」と決めつける。

大阪府教委は子どもたちのことを見ずにただ数字の競争に追い立て、教



子どもたちのために、最善の教育条件を確保しよう！

泉北教組への加入をうったえます。